

琉球藍製造技術保存会

文化審議会文化財分科会 企画調査会（第5回）

1. 団体概要
2. 琉球藍の作業工程
3. 活動概要
4. 現状と課題
5. まとめ

令和8年7月13日（月）
会員・事務局長：池原幹人

1. 団体概要

所在：沖縄県国頭郡本部町字伊豆味

2846番地13

本部町伊豆味みかんの里総合案内所施設

会員：13名

(監査：2名・顧問1名含む)

準会員：1名

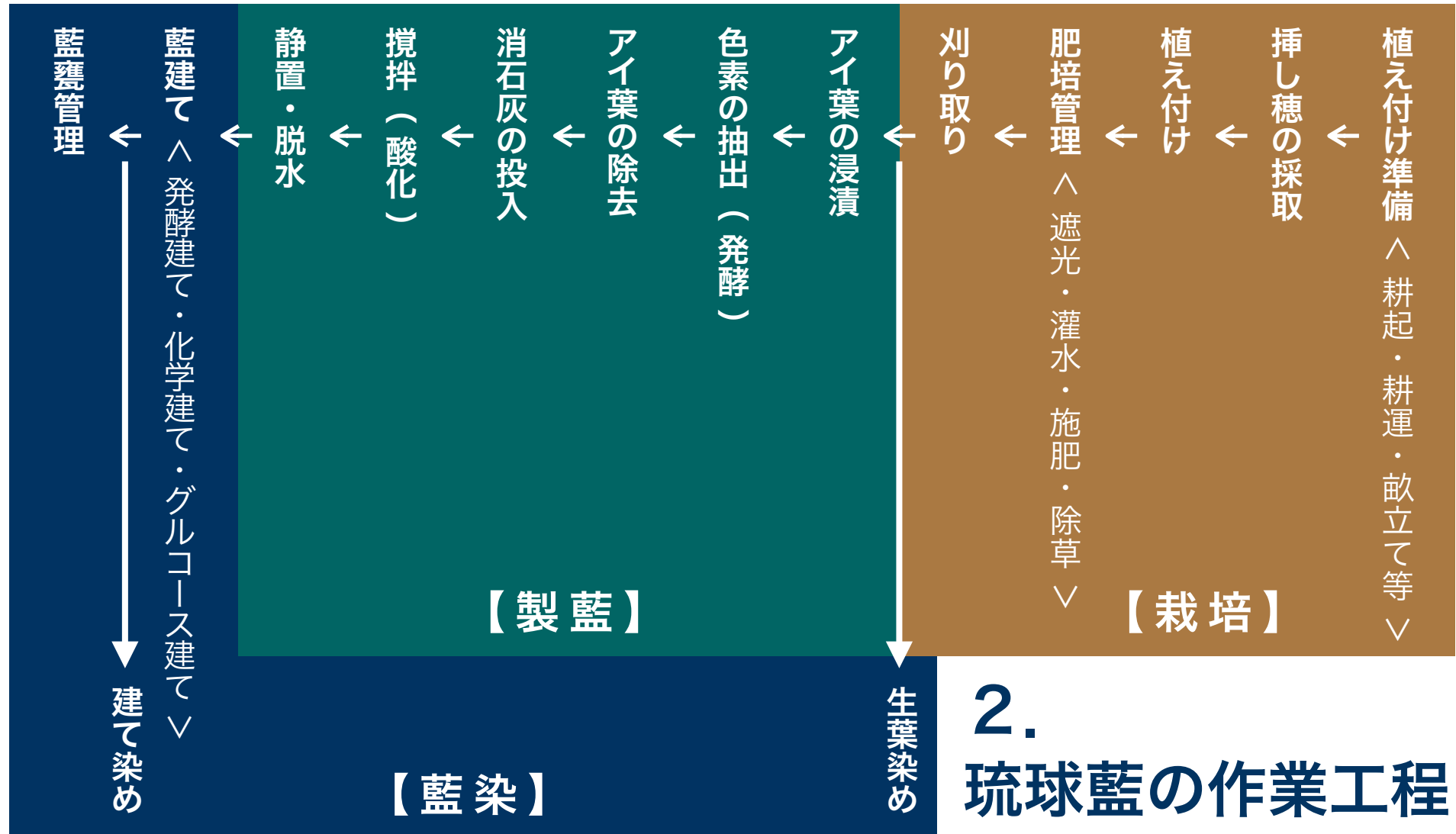
賛助会員：1名

平成10年：設立

平成14年：選定保存技術（団体）認定



選定保存技術



2. 琉球藍の作業工程

3. 活動概要

< 補助事業 >

① 伝承者養成研修

- ・製藍研修
- ・栽培研修

② 普及・啓発活動

- ・藍染体験
- ・研修成果品（藍染料）提供

③ 原材料・用具確保経費

- ・外部植物研究員との連携 1

< 委託事業 >

① 藍葉（栽培農家）の確保

- ・新規農家の確保
- ・栽培資材の提供

② 生育環境の調査

- ・外部植物研究員との連携 2
- ・土壌環境調査
- ・肥料設計

< 自主事業 >

みかんの里の活用

- ・活動の拠点・窓口
- ・事務局員の作業場
- ・藍染体験（団体向け）
- ・パネル・年表等の展示
- ・資料集積

< 補助事業 >

① 伝承者養成研修 ※2製造所+保存会圃場で年間を通して実施

- ・ 製藍研修（染料づくり）
- ・ 栽培研修

② 普及・啓発活動 ※①で製造した成果品（泥藍）を活用

- ・ 藍染体験（8月の土曜日・日曜日に限定開催）：一般向け
- ・ 沖縄県内染織作家・産地への成果品（泥藍）提供：作家向け

③ 原材料・用具確保経費

- ・ 国立科学博物館・植物研究員との連携 1

刈り取り後のアイ葉の浸漬



藍染料の汲み出し



補助事業① 伝承者養成研修

補助事業の要である製藍研修

消石灰の投入と攪拌



令和7年度状況

- ・ 研修日数：年間40日
- ・ 対象製造所：2製造所
(各講師1名・研修生1名)

植え付け



刈り取り



補助事業① 伝承者養成研修

製藍研修を行う上で欠かせない栽培研修

植え付け準備
(耕運)



令和7年度状況

- ・ 研修日数：年間40日
- ・ 対象製造所：2製造所
(各講師1名・研修生1名)

絞りの説明



補助事業② 普及・啓発

一般の方々に広く琉球藍を知っていただくため、毎年8月に海洋博公園にて開催中の**藍染体験**

藍染



藍染後の洗い



- 令和4年度参加者：
759名 / 全20回開催
- 令和5年度参加者：
504名 / 全8回開催
- 令和6年度参加者：
737名 / 全8回開催
- 令和7年度参加者：
431名 / 全8回開催

久米島紬保持団体 視察



宮古上布保持団体 視察



補助事業② 普及・啓発

使い手との意見交換、泥藍の需要拡大を目的とした
沖縄県内染織産地への**研修成果品（藍染料）提供**

八重山上布・新垣幸子氏工房 視察



- 令和5年度提供団体数：
8団体 / 各10kg
- 令和6年度提供団体数：
7団体 / 各10kg
- 令和7年度提供団体数：
3団体 / 各10kg

温湿度や照度が測れる環境測定器の設置



インターバル撮影を行う自動撮影カメラの設置



※村井先生からは主に栽培環境や色素合成の視点からアドバイスを頂いている

補助事業③ 原材料・用具確保経費

栽培マニュアル作成を見据えた
外部植物研究員との連携 1

撮影記録を確認する国立科学博物館・村井良徳氏



< 委託事業 >

① 藍葉（栽培農家）の確保

- ・ 新規農家の確保
- ・ 栽培資材の提供

② 生育環境の調査

- ・ 沖縄美ら島財団・植物研究員との連携 2
- ・ 土壌環境調査
- ・ 肥料設計

委託事業① 藍葉 (栽培農家) の確保

藍葉 (栽培農家) の減少対策のための
新規農家の確保



支柱・遮光ネットの提供



苗の提供



堆肥・肥料の提供

※琉球藍栽培 に最低限必要な苗や肥料、資材(100坪分) の提供を行っている

委託事業② 生育環境の調査

栽培マニュアル作成を見据えた
外部植物研究員との連携 2



講義を行う沖縄美ら島財団・砂川春樹氏



pHやEC等土壌の測定



月に1度の生育記録を行う会員

※砂川先生からは主に土壌環境や肥料設計の視点からアドバイスを頂いている

< 自主事業 >

- ① 活動拠点の整備**
- ② 団体向け藍染体験の受入**
- ③ 教育機関の受入**

町内の既存施設を活用した活動拠点の整備



自主事業① 活動拠点の整備

琉球藍について学び、藍染体験も楽しめる
事務局機能も備えた活動拠点および窓口

団体向け
藍染体験



琉球藍の作業工程や年表パネルの設置



藍染を行う海外からのお客様



自主事業② 団体向け藍染体験の受入

令和7年9月の受入開始以降、区内の子供会や婦人会、県内外や海外からの受れも行っている

藍染前の模様付けの説明



・令和7年度実績：
139名 / 5団体

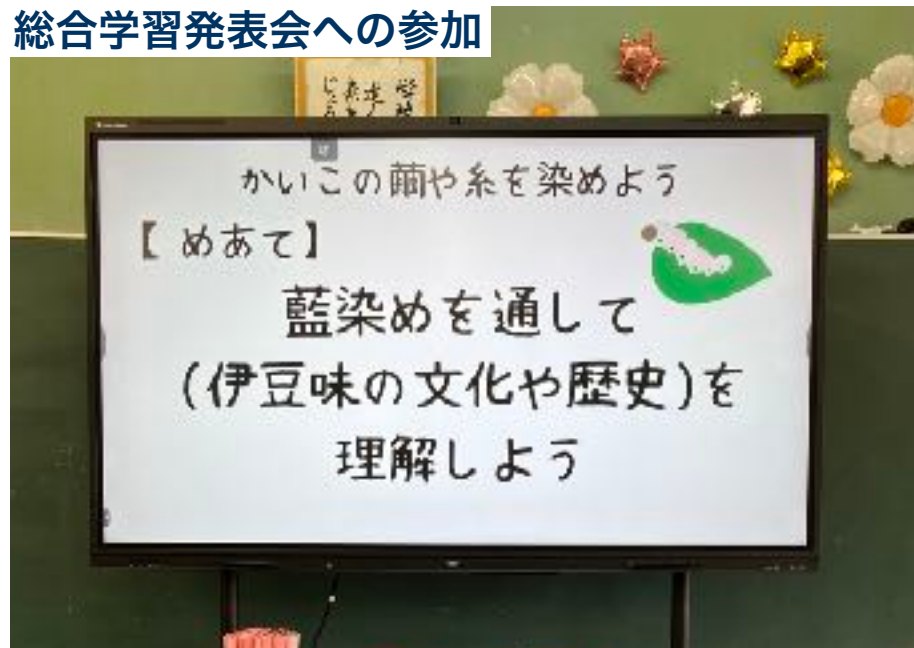
伊豆味区内の子供会の受け入れ



琉球藍の作業工程や歴史の説明



総合学習発表会への参加



自主事業③ 教育機関の受入

個人で行っていた地元小学校の受け入れも、活動拠点の整備を行ったことで、保存会としての受け入れが可能となった

藍畑の見学



・令和7年度実績：
14名 / 1校

4. 現状と課題

< 現状 >

- ① 琉球藍を取り巻く現状

< 課題 >

- ① 藍染料の扱いの複雑さ
- ② 藍栽培農家の減少
- ③ 事務局機能の安定

現状① 琉球藍を取り巻く現状

琉球藍は重要無形文化財をはじめとする沖縄の染織工芸には欠かす事の出来ない主染料です。

琉球藍を主に使用する宮古上布を筆頭に、喜如嘉の芭蕉布や久米島紬など県内の各染織産地で古くから重宝され、現在も確実な需要となっている。

選定保存技術の認定をうける弊会は、上記の需要に対して安定供給することが不可欠であるが、現状は若干の需要過多となっている。

加えて、サステイナブルやエシカル、SDGsと言った昨今の時流に起因する染織工芸以外の新たな需要も高まっており、増産が急務となっている。

しかしながら、無計画な増産は品質の低下や需要と供給のバランスを崩す恐れがあるため、弊会では増産に向けて段階的に取り組んでいる。

課題① 藍染料の扱いの複雑さ

＜課題＞

- ・ 製造所ごとの藍染料の品質の違い
- ・ 藍建て（藍染料を藍染ができる状態にする工程）の違いによる手法の違い
- ・ （藍建て後の）藍染液の日々の管理の難しさ

＜現在行っている対策＞

- ・ 沖縄県内の染織作家・産地への研修成果品（藍染料）の提供
- ・ 沖縄県内の染織作家・産地との意見交換会・視察受け入れの実施
- ・ 作り手と使い手が気軽に連絡・連携が取り合えるネットワークの構築

＜今後に向けて＞

- ・ 弊社会員に向けた藍染料の製造・扱い方についての指導強化
- ・ 染織家に向けた藍染料の扱い方についての講習会の実施強化

課題② 藍栽培農家の減少

＜課題＞

- ・ 藍葉の買取価格の安さ
- ・ 資材・肥料等の物価高の影響による農業経費の高騰
- ・ 温暖化等、外的要因の影響による藍栽培の難しさ

＜現在行っている対策＞

- ・ 研修で使用する藍葉購入価格の引き上げ
- ・ 委託事業を活用した新規の栽培農家募集および資材提供
- ・ 外部有識者と連携しての栽培調査

＜今後に向けて＞

- ・ 初めて藍栽培に取り組む方でも安定して栽培ができるような栽培方法の検討
- ・ 栽培マニュアルの作成

課題③ 事務局機能の安定

＜課題＞

- ・ 会を運営するためのコミュニケーション力
- ・ 資料作成等を行うためのパソコン操作スキル
- ・ 来客や問い合わせ対応に必要な最低限の藍に関する知識の習得
- ・ 補助事業内での勤務日数が限られる

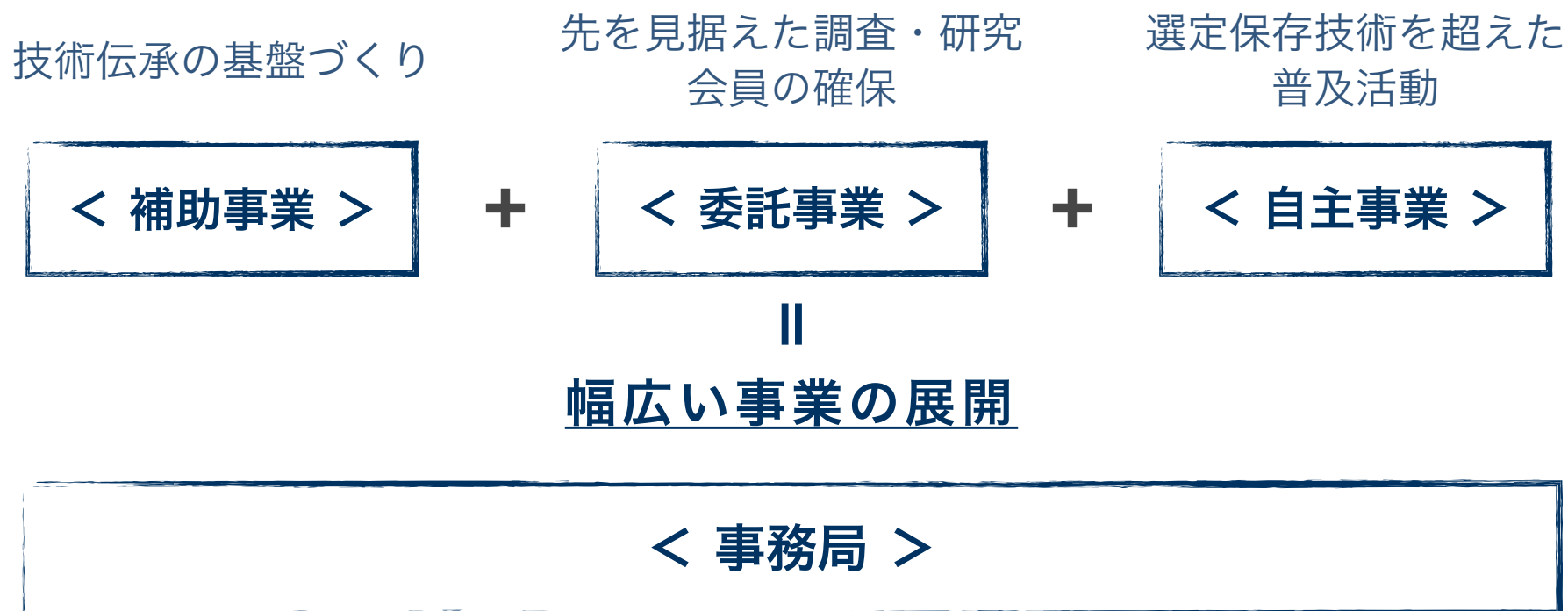
＜現在行っている対策＞

- ・ 藍染体験等の自主事業を行い、補助事業以外でも給与が支払えるような仕組づくり

＜今後に向けて＞

・ 安定して事業を行うには事務局が重要であるため、琉球藍製造同様に事務局の人材育成も必須であるが、上記の課題を満たすにはハードルが高い。
現在は生産者が事務局を担っているが、活動の拡大に伴い業務は煩雑となり生業との両立が困難となっている。
今後は、博物館や観光協会を含む町内の自治体との連携も重要。

5. まとめ



補助事業・委託事業・自主事業3つの事業を連動させることで、幅広い事業の展開を行うことが可能となった。
一方で、3つの事業を円滑に運営する事は容易ではなく、事務局機能の安定が重要となっている。